はじめに

昨年度、教育委員会では、保健福祉局とともにプロジェクトを組み、虎の巻シリーズ其の3「学校で使える虎の巻」を作成、発行しました。そのプロジェクトを進める過程で、冊子に掲載された八つの事例の他にも様々な場面で子どもたちが抱える学習や生活上の困りごとがあることが分かりました。この冊子では「其の3」に載せきれなかったことを中心に扱いました。

一口に「発達障がい」と言っても、コミュニケーション上の難しさもあれば、行動面や学習上の困りごとなど様々です。発達障がいの他にも、教室の中には、見えづらい、聞こえづらい、話すのが苦手など、いろいろな困りごとを抱えている子どもがいます。

彼らの中には通級指導教室に通い専門的な指導を受けている子もいます。しかし、表面的には分かりにくいため、周囲に認識されず、適切な対応がされていない子も多くいます。

本冊子が彼らの状況について理解の一助になり、適切な支援や指導へのきっかけになることを願っております。

ご協力いただきました各通級指導教室のご担当、また、それぞれの教室の保護者の会の各位にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

札幌市教育委員会　虎の巻作成プロジェクト　札幌市保健福祉局

通級による指導について

通級による指導は、小学校及び中学校の通常の学級に在籍している軽度の障がいのある児童生徒に対して、特別の指導の場（通級指導教室）において、障がいの状況等に応じた特別の指導（自立活動の指導等）を行う教育形態のことです。

通級指導教室では、障がいに基づく困難を児童生徒と周りの人々が主体的に改善できるよう支援することをねらいとしており、児童生徒が在籍する学校（在籍校）と連携を図りながら、支援を進めています。

札幌市では、言語障がい通級指導教室（ことばの教室）、難聴通級指導教室（きこえの教室）、弱視通級指導教室（ひとみの教室）、発達障がい通級指導教室（まなびの教室）を設置しています。

通級による指導を希望する場合には、札幌市教育センター（電話　011-671-3210）での教育相談と就学相談の申込が必要ですので、ご相談ください。

保護者の方の声

幼い時から落ち着きが無く、「躾が悪い困った子だ。」と言われ続けて来ました。
本当に困り感が出たのは、団体生活が始まった幼稚園の頃からです。
それでも、「我が子に限って…。」と信じ続け、一喜一憂する日々でした。
診断を受けてみようと思ったのは三年生の終わり頃、クラスのお母さんの、「何か困ってない?」の一言でした。
学校での子どもの様子をみて、心配して声を掛けてくれたのです。　その一声に背中を押されました。
そして、診断されたADHDと初めて聞いた言葉。「我が子の問題行動は、躾や性格が悪いからでは無かったんだ。」と安堵したのを覚えています。
ですが、それと同時に、「これからどうしたら良いのか、どう育てていけば良いのか。」と暗中模索の中、回りの人たちの力を借り、何とか踏ん張ってきた日々でした。
見た目では判らない障がいなだけに、誤解や偏見との闘い…。それでも、子どもは少しずつ成長してくれました。
皆さんの更なる理解と出来れば温かく見守って頂ければと思います。

この冊子は、通級指導教室で指導されている先生方やその保護者の方などのお話を元に、
学校生活において様々な困難を抱える子どもたちのまわりで発生しがちな
“認識の違いを **ギャップ!!** として表現し、
その解決策となる支援ポイントを **チェンジ!!** として示しています。
双方の理解が深まるほど **グッドジョブ!!** という好結果につながります。

※解決策の実施にあたっては、保護者への説明と理解を得ることを前提としています。

続・学校で使える「虎の巻」もくじ

それぞれの通級指導教室について …… 4

ひとみの教室編

まぶしさへの配慮
光を避ければ華麗なジャンプ …… 8
こっちはどっち?
大きな矢印 大きなサポート …… 10

きこえの教室編

伝え方のコツ
特性が分かればしっかり伝わる …… 12
もうひと工夫
文字と視線でコミュニケーション …… 14

ことばの教室編

説明と理解
違いを共有 和気あいあい …… 16
基本は受容
受け入れられれば自信につながる …… 18

まなびの教室編

こころの整理
視界の整理で授業に集中 …… 12
ひとてまが肝心
ちょっとの工夫で自立実現 …… 22
劇的に改善
小さな道具が大きな役割 …… 24
法則を体全体で
ルールを体感 広がる可能性 …… 26